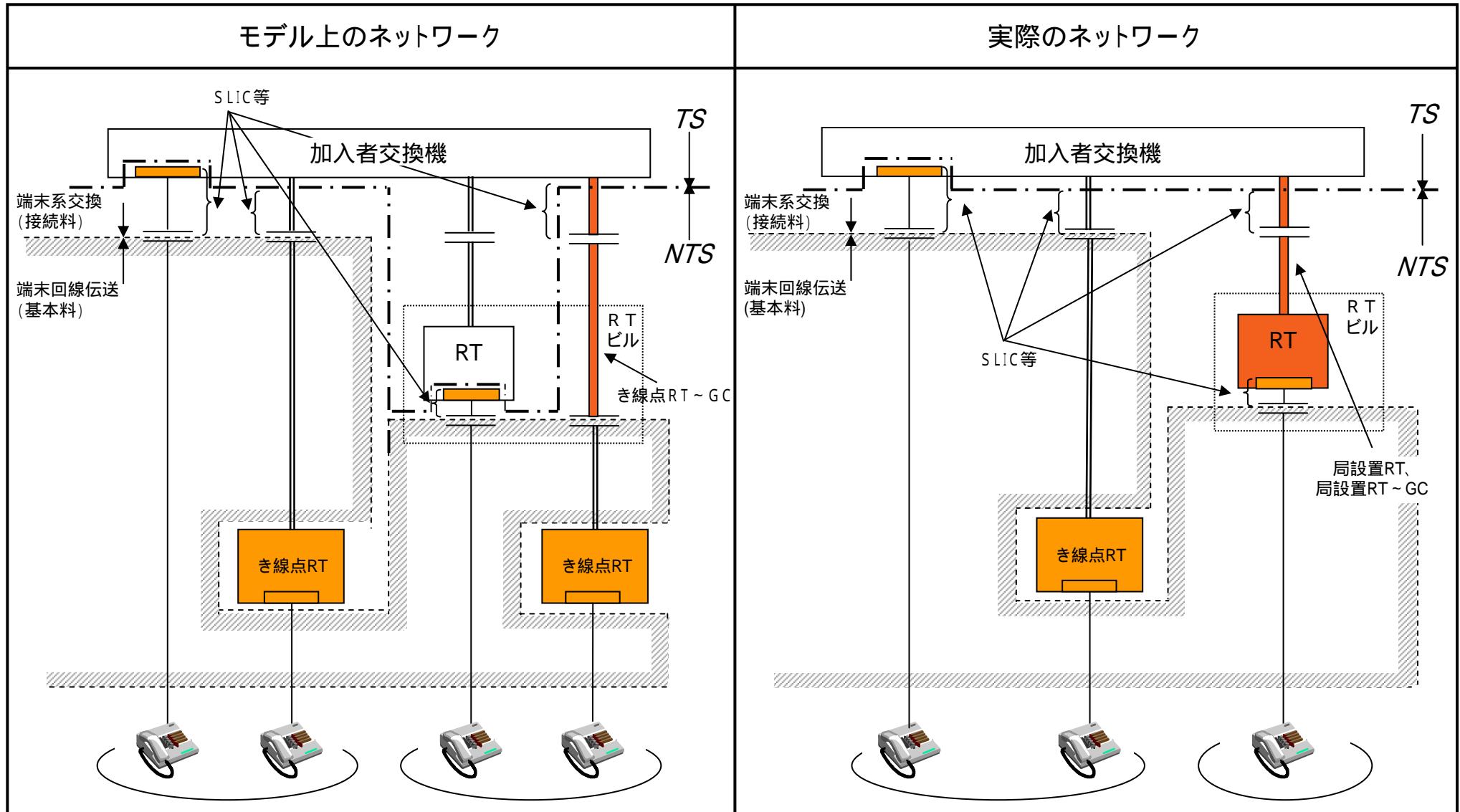


資料 3

(第53回接続委員会資料再掲)

固定電話に係る設備と費用について

固定電話に係る設備と費用範囲の比較



モデルと実際のネットワークの違い

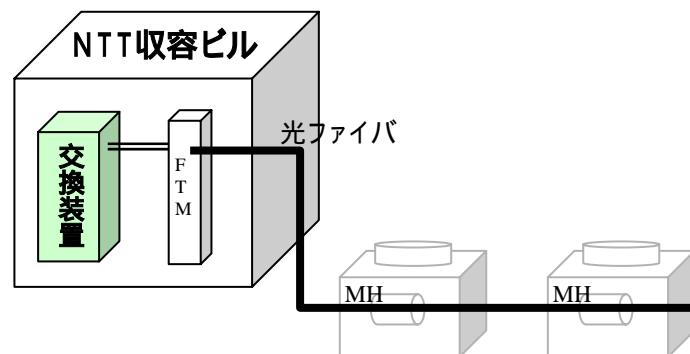
- ・モデル上は、RTビル内のき線点RTから加入者交換機までの中継伝送路()が存在するが、実際のネットワークにはなし。
- ・モデル上のRTは集線機能があるため、TSコストに整理されるが、実際のネットワークでは集線していないためNTSコストに整理される。

き線点遠隔収容装置(き線点RT)の概要

遠隔収容装置(RT: Remote Terminal)とは、複数の銅線(電話、ISDN等)を光ファイバに多重化し、交換機に接続する装置。

住宅、ビルの新規開発等、新たな需要に対応するためNTTビルから銅線を敷設する方法とコスト等を比較し導入される。

注 BOXタイプRTとキャビネットタイプRTがあり、き線点RTの多くがキャビネットタイプ



寸法(例)

BOX : $2.5 \times 5.0 \times 2.5$ (m)

キャビネット: $1.4 \times 0.45 \times 1.1$ (m)

NTSコストと整理されている設備の概要について

設備	機能	沿革・備考
き線点RT	<ul style="list-style-type: none"> ・メタル回線を収容する機能 ・呼出信号の送出等の機能 ・光信号 / 電気信号変換等機能 	<ul style="list-style-type: none"> ・加入者回線のコスト低廉化のため、平成3年から順次導入。 ・SLICがGC局舎外に張り出したもの。 ・き線点RT収容の場合はDSLサービス不可。
局設置RT	<ul style="list-style-type: none"> ・メタル回線を収容する機能 ・呼出信号の送出等の機能 ・光信号 / 電気信号変換等機能 	<ul style="list-style-type: none"> ・従来は小型交換機が置かれていた小規模交換局に設置されたもの。 ・主としてSLICの機能を有するもの。 ・モデルの局設置RT(SLIC部分を除く)は集線機能があるためTSに整理。
RT局 - GC局間 伝送路	<ul style="list-style-type: none"> ・光ファイバで通信を伝送する機能 	<ul style="list-style-type: none"> ・RTが小型交換機に置き換えられる以前は、TSに整理されたもの。 ・ドライカッパはRT以下であり、RT - GC伝送路を含まない。
MDF、CTF	<ul style="list-style-type: none"> ・局内ケーブルを収容するための配線盤 	
LXM (半固定 パス接続装置)	<ul style="list-style-type: none"> ・光ファイバによって伝送される通信を複数の交換機に振り分ける機能 	
SLIC (加入者ポート)	<ul style="list-style-type: none"> ・加入電話のメタル回線をGC交換機に収容する機能 ・呼出信号の送出等の機能 	<ul style="list-style-type: none"> ・ISDN用回線の同様の装置(OCU)は基本料の費用範囲。